

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科：地歴 科目：日本史演習 単位数：2単位

教科：（地歴） 科目：（日本史演習） 単位数：（2単位）

対象学年組：（第3学年）

使用教科書：（『詳説 日本史探求』山川出版社）

教科の目標：「地歴」の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本史展開に関わる諸事象について、世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解し、日本史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身につける。	日本史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	日本史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、日本や他国の歴史・文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目の目標：「日本史」の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようになる。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

指導項目・内容	単元の具体的な指導目標	評価の規準			観点1	観点2	観点3	授業配当時数	
		観点1:知識・技能 【評価の方法】定期考査／小テスト	観点2:思考・判断・表現 【評価の方法】定期考査／小テスト	観点3:主体的に学習に取り組む態度 【評価の方法】課題・レポートの提出					
1 学期	第6章 近世から近代へ 1 鎌倉幕府の成立	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。					
	2 武士の社会	①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。	○	○	○	12	
	3 モンゴル襲来と幕府の衰退	①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていることを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。	宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的背景や国内政治への影響について理解している。	鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。	宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。				
	4 鎌倉文化	①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進化した背景を考察する。	公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。	宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。	鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。				
2 学期	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。	南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	14	
	2 幕府の衰退と庶民の台頭	①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。	自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。	室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのような異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。				
	3 室町文化	①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ②庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。	室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出すようとしている。				
3 学期	4 戦国大名の登場	①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。	戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。					
	第8章 近世の夜明け 1 織豊政権	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。	織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通過する問いを表現しようとしている。				
	2 桃山文化	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ②中世から近世への変化について考察し、時代を通過する問いを表現する。	桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。	豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	桃山文化の特色について、中世文化の特色と比較を通じて、その類似と差異を見出すようとしている。	○	○	○	12
	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。	新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。	幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。				
	2 幕藩体制の構造	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。	新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。	織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下における社会の仕組みとを比較・考察し、そのつながりを見出すようとしている。				
	3 幕政の安定	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。	戦乱のない時代が創出されたことの意味を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。				
	4 経済の発展	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	産業の発達、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都に開く諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。	陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推察や展開を明らかにしようとしている。				
3 学期	5 元禄文化	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取り、技能を身につけている。	近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。				
	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸改革の意義について理解している。	商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。	幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	16
	2 宝暦・天明期の文化	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。	幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。				
3 幕府の衰退と近代への道	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事情面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府勢力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。	国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。					
4 化政文化	①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	政治・経済と文化の関係などに着目して、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。	近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもとに、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について考察し、表現している。	近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出すようとしている。	○	○	○	3	
	(補助考査)				○	○	○	1	
					合計			62	